

令和5年度全国学力・学習状況調査結果分析

【佐倉市立井野中学校】

実施日：令和5年4月18日（火）

I 教科に関する調査結果からの分析

<国語科>

どの項目においても全国平均を上回っている。特に、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」は大きく上回った。しかし、適切な言葉を用いて自分の考えを表現することや、文章の内容を正確に読み取ることについては、改善の余地が見られる。段落ごとの中心文を見つけ、要旨をつかんだり、各段落の役割や関係を捉えたりする指導が必要である。

<数学科>

どの項目においても全国平均を大きく上回っている。全国平均が低い項目ほど差が顕著であるため、どの領域・問題形式にもよく解答ができています。それでも基礎的な分野で躓いている生徒や、うっかりの計算ミスをしてしまう生徒は、普通の授業でも見られる。昨年度と比べても、数と式の分野でのミスが多くあるため、確実な計算能力を定着させたい。

<英語科>

本校においては、どの領域、問題形式とも大きく上回っている。特に「書くこと」「記述式」において高い正答率が出ている。これは、朝ドリルの時間や授業で基本的な単語や文法の復習を繰り返し行っていること、それを活用しての自己表現活動を多く取り入れていることの成果だと思われる。一方で、各領域の中で比較的劣る「聞くこと」の力を伸ばせるように指導していきたい。

II 質問紙調査に関する結果からの分析

<学校質問紙>

全国と本校の結果を比較すると全体的に上回っているが、「教職員の資質能力の向上」が大きく下回っている。校内研修の中で相互授業参観を企画したが、実際に参観できた職員の割合がやや低かった。また、校外研修の参加を自ら希望する職員がやや少なかった。これは働き方改革が十分に進まず、日々、目の前の仕事に追われて勤務時間が長くなってしまっていることで研修に取り組むゆとりを失い、関心が高まらないことに影響してしまっているとも考えられる。

また、各教科の「指導方法」は大きく上回っている。授業準備に力を入れている職員が多いことが、この結果に繋がっていると考えられる。

<生徒質問紙>

全国と本校の結果を比較すると、「国語への関心等」と「数学への関心等」が大きく下回った。授業の内容がわからないと感じている生徒の割合がやや多く、教科への関心が高まっていないようである。学力差の大きさが、授業がわかりにくいと感じてしまっていることに繋がってしまっているとも考えられる。一方で、「英語への関心等」は大きく上回った。授業でICT機器の活用頻度が高いことやペアで行う言語活動を多く取り入れていることが、この結果に繋がっていると考えられる。また、「規範意識」で大きく下回っており、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答している生徒の割合が低かった。

III 改善策と検証方法

<改善目標>

国語科では、言語に関する知識を身につけさせる。また、筆者の考えを正確にとらえ、要旨を自分の言葉でまとめられるようにする。数学科では、確実な計算能力を定着させるために、授業改善を図っていく。英語科では、「聞くこと」の力を伸ばせるように、授業改善を図っていく。

学校質問紙に関することでは、校内研修を充実させていく。また、働き方改革を進めていく。生徒質問紙に関することでは、わかる授業を実現し、各教科への関心を高められるようにする。また、規範意識を高められるように、生徒とのかかわりを大切にしていく。

<改善方策>

国語科では、授業のはじめに言語に関する知識を扱う時間を確保する。また、文章を読む際、各段落の内容や、それが文章全体にもたらす役割について考える機会を増やす。数学科では、朝のドリル学習の時間で計算練習を継続して行っていく。また、計算の誤答例について授業で取り組み、計算間違いをしやすいポイントを確認する。英語科では、ALTやJETの話す英語を聞いたり、話していた内容を理解できたか確認したりする機会を増やしていく。

学校質問紙に関することでは、相互授業参観を行いやすくするために、学期に1コマ分の参観時間を確保する。また、教育課程の編成を見直し、勤務時間内に事務作業に充てる時間を増やしていく。生徒質問紙に関することでは、各教科で学習することの楽しさや大切さを実感できるように、授業研究をより一層充実させたり、ICT機器を活用した授業を効果的に行っていく。

<検証方法>

各教科については、今年度の本調査の結果を全職員で共有し、改善方策を実践し、次年度の結果と比較して成果を確認する。さらに、学期に一度、生徒からの授業アンケートを可能な限り行い、学習意欲の高まりや理解の深まりについて実態把握を行う。

相互授業参観後に、参観者が記入した内容について対象職員にフィードバックするとともに、職員会議等でも紹介し、共有していく。

授業参観で保護者の方に生徒の活動する様子を直接見ていただき、授業アンケートを実施して分析する。また、学校評価に関する保護者アンケートを実施し、数値や記述で示されたものを分析する。さらに、その結果を公表することで、学校と家庭での協力体制を強化していく。